

2 指導の重点

(1) 各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動

ア 各教科

- ◎「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう、授業改善をする。「せたがや探究的な学び」を基に、自ら課題をもち、体験的な活動や情報活用を通じて、課題を解決していく力を身に付けていく。
- ◎個々の学習状況に応じた「個別最適化された学び」のために、日常的に1人1台端末を活用し、個に応じた課題に取り組み、学びの個性化を図る。
- ◎1人1台端末を活用し、誰もが自らの思いを発信し、他者と協働した学びを行えるようにしていく。
- 国語・算数では、学習内容の系統性を重視し、小集団の学習グループの中で意欲的に学び、自ら解決しようとする力を伸ばす。
- 日常生活の指導を行い、身近処理能力の向上や、基本的生活習慣の確立を目指す。
- 体育や遊びの指導を通して、各種ゲームのルール理解や、円滑な人間関係を築くためのコミュニケーションの力を育てる。
- 生活単元学習では、野菜の栽培と収穫、買い物と調理、季節の行事を楽しむための取組、自分の心と体のこと、性の多様性についての理解、身の回りの清潔などを知る性教育、刺繍や小物づくりなどの裁縫活動、河口湖移動教室等を実施する。

イ 特別の教科 道徳

- 人権教育や特別の教科道徳の全体計画及び「人格の完成を目指して」の月ごとのテーマを基に、教育活動全体を通して善いこと・悪いことの区別、社会生活のきまりを守る態度を育てる。
- 「特別の教科 道徳」では、「主として自分自身に関すること」に重点を置き、自分の体や心について理解し、自己肯定感を高め、社会の中でよりよい生活を送る力を育成する。
- 道徳授業地区公開講座では、保護者も授業に参加するスタイルを取り入れ、児童との関わりを大切にした授業をつくりを行う。また保護者や地域の方々と意見交換を行い、家庭や地域と連携して子どもに道徳的实践力を養う。

ウ 総合的な学習の時間

- 体験的な活動を通して基礎的・基本的な内容の定着を図り、生活の中で実践できる能力を育てる。
- 各教科で身に付けた力を総合的・統合的に活用し、探究的な学習を通して、一人一人の資質能力の向上を図る。
- 創造力や課題解決能力を育成する探究的な学習の充実に向けて、学校・家庭・地域の人々と関わる学習活動や、地域の自然（里山）を生かした体験的な学習や栽培活動を行う。
- 一人一台のタブレットを活用した ICT 教育活動を充実させ、自己を表現する力や情報を活用する力を伸ばす。また情報の取捨選択、SNS ルールなどの情報リテラシーを指導していく。
- 児童が使いやすいアプリケーションソフトを使用しながら、プログラミングする力を身

に付けさせる。

エ 教科「日本語」

- 「世田谷区教育要領 総則」及びに「第2章 教科『日本語』」の趣旨を踏まえ、教科「日本語」の目標を達成するため以下の重点を設定する。
- 「自分の考えや思いを表現することができる力を育成する。」
教科「日本語」の学習を通し、語彙を豊かにし、自分の考え、思いを率直に表現できる資質・能力を培う。
- 「日本文化を継承し、発展させる態度を育成する。」
日本文化の理解にとどまらず、日本文化を継承している人たちへの敬意と自らが日本文化の継承の担い手であるとの意識を児童に醸成する。
- デジタル教材を活用し、視覚的に日本語の意味を理解できるようにする。

オ 特別活動

- ◎クラブ、委員会活動、たてわり班活動などの異学年交流活動等では、通常の学級との交流を通して、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- 運動会、学習発表会等の学校行事へ主体的に参加し、活動の喜びや成就感を体得させるとともに、自己実現に向け、自己を生かす能力を養っていく。
- 学級活動の充実を図り、キャリア教育の視点に立った内容を取り入れていく。

カ 外国語活動（小学校1年生～4年生）

- 1～4年生で実態に合わせて実施し、コミュニケーションを中心とした言語や文化が異なる人々と主体的に関わる力を育てる。
- 4年生では、英語体験教室を活用し、他国の文化や世界を理解できるようにする。
- ALTと連携し、歌やゲームを通して児童にとって分かりやすく楽しい外国語活動となるようにする。

キ 自立活動

- 障害の状態を改善・克服するために必要な能力や態度を養う。
- 全教育活動の中で、日常生活への適応を図るための心身の調和のとれた発達をめざす。
- 毎朝の運動時間や校外歩行、持久走を通して、健康を保持し、体力を増進する。リトミックを通じ、身体の動きの向上をめざす。
- コミュニケーション能力の育成を図り、自己表現力を高めるとともに、人としての接し方を覚え、心地よい人間関係を築く力を育てる。
- 各種の作業活動を通して、手指の巧緻性を高めるとともに、完成した喜びを実感させ、やりぬく力を育てる。

ク 各教科等に合わせた指導

- 「日常生活の指導」・・・衣服の着脱、身の回りの整理整頓、清掃活動、食事のマナー
健康的な生活をつくる、一人登下校など、自立するために
必要な力を身に付けられるように日常的に指導をしていく。
- 「遊びの指導」・・・室内レクリエーション、鬼遊び、ボール遊び、遊具遊び等、様々

な遊びに取り組み、ルールを覚えたり、気持ちの良い人間関係を築いたりできるように指導をする。

「生活単元学習」・・・季節ごとにテーマを決めて、様々な「会」を開催する。児童が友達と協力して内容を考えたり準備をしていったりすることで、見通しをもって生活する力や他者とのコミュニケーション能力を高める。

(2) 生活指導、キャリア教育

ア 生活指導

- ◎「学校いじめ防止基本方針」に基づく研修会を行い、全教職員で児童理解・指導にあたり、いじめの早期発見・早期解決に全力で取り組む。「いじめは、どんな理由があっても絶対にいけないこと」「傍観者をつくらない」等の意識を醸成していくため、「いじめの傍観者をつくらない」ための授業、「ネットリテラシー醸成講座」、「いじめ防止プログラム」や「いじめに関する講師を招いた授業」などに取り組む。また、Q-U調査を活用して、学級の実態を把握し、よりよい学級を目指し、友達との関わりが上手にできるようにしていくことや、児童の自殺予防の取り組み、「SOS の出し方」の指導を徹底していく。
- ◎不登校児童に対し、定期的に保護者・児童と連絡を取り、改善を図る。
- 「すすんであいさつができる子ども」を重点目標とし、毎学期に「あいさつ隊によるあいさつ運動」、毎月1回「明正おはよう DAY」を設け、実践力の育成を図る。
- 安全教育全体計画に基づき、警察や消防の協力を得ながら安全教育を推進するとともに、スクールカウンセラー等と連携し、教育相談活動を充実させ、教職員全員で教育相談・生活指導上の情報交換、共通理解を図り、子ども一人一人が安心して生活できるよう支援する。
- 自転車の安全な乗り方を推進し、PTA とともに、ヘルメットの着用を広めていく。

イ キャリア教育

- ◎キャリア教育を効果的に展開していくために、キャリア教育年間指導計画に基づき、特別活動の学級活動、総合的な学習の時間を生かすなど、学校の教育活動全体を通じて、基礎的・汎用的能力の育成を図っていく。さらに「キャリア・未来デザイン教育カタログ」に基づく活動の充実に取り組む。
- ◎キャリア・パスポートを活用し、児童のこれまでの活動の様子や考えを、写真や文章でまとめられるようにする。
- ◎地域の会社や商店、公共施設を活用する体験を通して、地域社会とのつながりを持ち、公共交通機関を利用して、目的地まで移動できる力を育む。
- 「新学習指導要領」や「世田谷区教育要領」の趣旨を踏まえ、児童の社会的自立・職業的自立に向けて必要な能力、意欲や態度を育む教育実践を推進する。
- 「砦の学び舎」の活動を通して、様々な学校の教職員や児童・生徒との関わりから、コミュニケーション能力を身に付け、豊かな人間関係を育み、多くの人とのつながりをもたせる。

(3) 教育目標達成のための特色ある教育活動・その他の配慮事項等

- ◎将来の自立に向けた個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、一人一人の実態に応じた段階的な指導を充実させる。
- ◎児童の発達段階や障害特性に合わせた通常の学級との交流計画を立て、児童が目的意識や見通しをもって参加できるインクルーシブ教育を推進する。
- ◎「学校2020レガシー」として「ボランティアマインド」を重点とする。地域の自治会による落ち葉かきに協力したり、里山での自然体験活動において里山の保全活動に携わったりする機会を計画に位置付け、ボランティアマインドの醸成に取り組む。
- 近隣の幼稚園・保育園・小学校・中学校とも連携し、地域社会の一員として生活する力を育てる。
- 家庭、地域社会、関係諸機関と連携を図り、地域と関わって生きる人材を育成する。
- 社会科見学を行い、事前事後学習を含めて、集団で過ごす楽しさを知り、仲間への友情や信頼を深め、マナーを守って、公共交通機関や施設、飲食店等を利用できる力を身に付ける。
- 地域の自然（里山）を活用し、一年を通して自然体験活動を行い、四季を感じたり、自然の豊かさ・美しさを知ったり、自然を大切にする態度を養う。